

第1回「日本語大賞」

テーマ 「人と人をつなぐ日本語」

中学生の部 優秀賞 受賞作品

「言葉のおくりもの」

長崎県

長崎日本大学中学校 2年

立川 綺夏

言葉のおくりもの

長崎日本大学中学校 二年

立川 綺夏

人がこの世に生まれて、初めて受けとる心からの「言葉のおくりもの」。それは『名前』ではないでしょうか。名付け親はさまざまでも、『名前』に込められた想いを受けとり一生その『名前』とつき合っていくことになります。

私の名前は『綺夏』、『あやか』と読みます。なかなか漢字の読みを一度であててもらえません。小さい時は、画数が多くて自分の名前をうまく書けませんでした。人に、「名前はどんな漢字なの？」と聞かれた時、何となく気恥ずかしくて、「糸へんに長崎の崎の字のつくり」と、まわりくどく説明して、なかなかわかってもらえないこともしばしばです。「素敵な名前ね」とほめてもらっても、「名前負けです」と赤面してしまいます。

だけど、私はこの名前が大好きです。小さい時から何度も名前の由来を聞かせてもらいました。父に、母に、祖父に、祖母に。家族みんなで何度も考え直し、調べ、家族みんなの想いを込めて『綺夏』と名付けられました。『綺』という字には「やわらかい織物、あやぎぬ、美しい」という意味があるそうです。『夏』には、季節を表す意味のほかに「盛り」という意味もあって、生き生きと太陽のように育ってほしいという願いが込められているそうです。『あやか』とひらがなで書いた時の文字の丸みとやわらかさは、心優しい女の子に育ってほしいという想いにピッタリだったと家族みんなが話してくれました。私は家族に、名前の由来を聞いている時、本当に幸せな気分になります。家族みんなが私の誕生を心から待ち望んでくれたこと、そして私が生まれてきたことを何よりも喜んでくれたことを実感するからです。私の成長の過程で、その年齢に合わせ、私に理解できる言葉をえらんで、家族がそれぞれに愛情に満ちた言葉で伝えてくれる「名前の由来」は、祖母から私へ、父母から私へ愛情の深さを伝えてくれるとても優しく、美しい「言葉のおくりもの」です。

私は『綺夏』という名前のおくりものを一生大切にしながら生きていきます。『綺夏』と誰かに呼んでもらうたびに、祖父の気持ちや父母の想いが重なって、家族の大切さやありがたさを再認識するとともに、自分自身を大切にしなければならぬと心から思います。そして想いのつまった『綺夏』という名前にふさわしい私になれるよう心を磨いていこうと思います。

今はまだ、自分に自信がもてない私ですが、これからも家族や友達やいろんな人達のをかりながら、ちょっとマイペースな私に合った速度で、ゆったりと前へ進んでいけたらいいかなと思っています。心や想いを言葉にして伝えることは、簡単なことではないし、自分らしい言葉で表現するとなると、さらに難しい気がします。いつかきつと今よりも自信がもてるような私になって、祖父母や父母が私にくれたように、私も大切な人に心をこめた「言葉のおくりもの」をしたいと思っています。